2026年度 事業計画書

公益財団法人　日本フィルハーモニー交響楽団

2026年3月

2026年度事業計画書　目次

○　はじめに・・・　1

Ⅰ　2026度　経営目標　・・・　2

1．日本フィル 70 周年記念事業の着実な遂行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
2．あくなき演奏力の向上を目指す・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
3．持続性のある意義の高い社会性活動を着実に進める・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
4．財政基盤の健全化・・・　3

Ⅱ　創立 70 周年記念事業・・・　4

1．特別演奏会「マーラー＜千人の交響曲＞」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
2．特別定期演奏会・・・　4
3．日本フィルの「交響三題」・・　5
4．室内楽シリーズ「東京室内楽定期」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
5．「日本フィルハーモニー交響楽団70周年史」（仮）発刊・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
6．70 周年記念 CD の発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
7．感謝イベントの開催等・・　6
8．新ロゴマーク・・・　6

Ⅲ　2026年度の各事業・・・　7

1．オーケストラ・コンサート　/　室内楽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
2．エデュケーション・プログラム、リージョナル・アクティビティ・・・・・・・・・・・・・　13
3．「被災地に音楽を」「東北の夢プロジェクト」（被災地での音楽活動）・・・・・・　14
4．演奏コンテンツの活用：映像、音源、配信を活用した新たな事業展開・・・・　15
5．社会の変化に対する音楽団体の関わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
6．サポート・・・　16

２０２６年度 事業計画書

はじめに

１９５６年６月２２日に㈱文化放送によって設立され、渡邉曉雄が常任指揮者となって誕生した日本フィルハーモニー交響楽団は、本年２０２６年６月に創立７０周年を迎えます。伝統に裏打ちされた高い演奏能力は、歴代の楽員の間で脈々と受け継がれて今日に至っております。

記念すべき今年は、長年にわたり楽団を支えてくれた多くの皆さまのご恩に報いるために、高い芸術性に裏打ちされた上質の音楽をお届けし、次の１００年に向けて時代の変化にしなやかに対応しながら、一層の飛躍を遂げて参ります。

合わせて、長年使用してきたロゴマークと合言葉を一新し、“共鳴を熱いウエーブに” を組み合わせた「**JPO**」の文字が第九交響曲の合唱に合わせて変化すると言う、未来に向けて羽ばたく日本フィルを象徴した、視覚的に分かりやすいマークに変更いたしました。

さて、７０周年のスタートになる４月は、就任４年目を迎えてその手腕を高く評価されている首席指揮者カーチュン・ウォンによるベートーヴェン交響曲第九番《合唱》、「歓喜の歌」で記念演奏会の幕が上がります。

また創立月の６月には、創立７０周年記念特別演奏会として、同じくカーチュン・ウォン指揮によるマーラー交響曲第８番《千人の交響曲》を上演します。
マーラーの作品中最大規模の、輝かしく偉大な歓喜と栄光を讃えた壮大な大曲で、聴く人の魂が浮き立つような、高揚感溢れる演奏会をご用意しました。

２０２６年度は、このほかにも海外の著名な指揮者や日本フィルにゆかりの深い指揮者陣を招聘し、魅力あふれる演奏会を多数用意して祝祭の年に相応しい華やかな１年にしたいと思います。

もう一つの大きな目標である「社会性活動」については、音楽を通して多くの人々に感動と心の癒しをお届けするという楽団の使命を改めて噛み締め、長年続けてきた「被災地に音楽を」の活動を核に、他の楽団には真似のできない日本フィルならではの社会貢献活動を展開して参ります。

Ⅰ．２０２６年度　経営目標

１．日本フィル７０周年記念事業の着実な実施

２０２６年度は、長年に亘り、日本フィルを支えてくれた多くのファンの皆様に感謝の気持ちを籠めて、記念定期演奏会、特別演奏会、新たに始まる東京室内楽シリーズ２公演を用意し、各種記念事業を着実に実施していく。

また、楽団から定期会員の皆様に長年のご愛顧に対する感謝の気持ちを伝えるため、マエストロや楽員と直接触れ合いのできる懇親の場を設ける。

６月の創立記念節目の月に開催する創立７０周年記念特別演奏会は、就任４年目を迎えた首席指揮者カーチュン・ウォンによる壮大なマーラーの大作、交響曲第８番＜千人の交響曲＞を上演し、日本フィルを長年に亘り支えてくれた多くのファンの皆様に心からの感謝の気持ちをお届けする。

また、日本フィルと縁の薄かった皆様にも積極的に演奏会に来ていただけるように、定期演奏会以外にもなじみの曲を取り上げる名曲コンサートや芸劇シリーズ、また第九特別演奏会、夏休みコンサートなどを積極的に **PR** し、新しいファン層の開拓に一層注力する。

そのほかに、創立５０年時に実現ができなかった日本フィル楽団７０周年史を制作し、関係の皆様方に感謝の気持ちを籠めてお届けする。

また７０周年を機に、従来のロゴマークと合言葉を一新する。動く新ロゴと「共鳴を、熱いウエーブに」を新しい合言葉は、「共鳴」のエネルギーを、さらにウエーブへと変えて、お客様へ、そして社会の隅々にまで広げていくことを意図している。

２．あくなき演奏力の向上を目指す

２０２６年度も、首席指揮者就任４年目を迎えるカーチュン・ウォンの卓越した演奏力と魅力溢れる上質な演奏を通じて、日本フィルならではの、新たなサウンドを追求する。

ウォンの圧倒的な存在感と、マーラー作品などに見られる「静」と「動」を対比させる理知的な解釈は、国際的にも極めて高く評価されている。

ウォンが、オーケストラの重厚でしなやかな音を引き出し、彼の持つドラマティックなサウンドを産み出す優れた描写力を最大限にアピールしていきたい。

長きに亘り、楽団の芸術性の向上や発展を牽引し、多くの熱狂的ファンを抱える桂冠名誉指揮者小林研一郎とは、２０２６年度も東京定期演奏会で自身が得意とするスメタナの《我が祖国》を始めとして、熱いファンから圧倒的な支持を集める「コバケン・ワールド」や「名曲コンサート」、「第九特別演奏会」など、半世紀に渡り寝食をともにして活躍してきたマエストロ小林研一郎×日本フィルならではの阿吽の呼吸で比類なき演奏を楽しんでいただく。

昨年、オペラ公演で好評を博したフレンド・オブ・**JPO**（芸術顧問）広上淳一とは、記念月６月の記念定期演奏会でガーシュウィンの交響詩《パリのアメリカ人》を演奏する予定で、「ラプソイン・イン・ブルー」など名曲が散りばめられ、マエストロと日本フィルのシンクロされた演奏力が期待される。

３．持続性のある意義の高い社会性活動を着実に進める

今年度で５２年を迎える３世代のファミリー層を対象にした「夏休みコンサート」や、多くのボランティアの支えを軸に地域の音楽文化の普及活動に貢献し同じく５２年を迎える「九州公演」、さらには、東日本大震災の発生直後から沿岸の被災地で１５年間実施してきた音楽による心の復興支援活動、「被災地に音楽を」などの社会性活動は、今年度も一段の深化を見せながら実施していく。

日本フィルは、大牟田市に続いて岩手県との間で結んだ「文化芸術振興連携協定」、また２０２４年に福島県とも結んだ「包括連携協定」をもとに、東北での子供たちの未来の夢を育む活動や地域復興支援を継続して実施していく。

４．財政基盤の健全化

楽団の財政については、２０２５年度に多額の寄附金受領もあり、現時点では正味財産は引き続き安定しているが、本年度は７０周年事業の実施に伴い、多額の事業費が費やされる予定で、基礎収支の悪化と正味財産の減少は避けられない。

そのため主催公演の入場料、受託公演の演奏料を少しでも増やすことで基礎収入を増やし、周年記念事業を梃子に定期会員数の増強を図るとともに、受託先の新規獲得の強化を目指す。

一方で、膨れる事業経費や管理費については、演奏力低下への影響は抑えつつ、無駄な支出の削減を一層務めることで、財政バランスの悪化を極力防ぐ。

II. 創立７０周年記念事業

１．　特別記念演奏会「マーラー《千人の交響曲》」

「千人の交響曲」は壮大な物語を持つ傑作ながら、演奏に膨大な演奏者と準備を必要とするため、実現の機会はそう多くはない。

節目の年に、卓越した８人のソリスト、そして長年共演を重ねた３つの合唱団に加えてホームタウン杉並区の杉並児童合唱団を迎え、この特別な作品に取り組む。

2026 年 6 月 21 日（土）、22 日（日）/サントリーホール
指揮：カーチュン・ウォン［首席指揮者］
ソプラノⅠ（罪深き女）：船越亜弥
ソプラノⅡ（懺悔する女）：吉田珠代
ソプラノⅢ（栄光の聖母）：三宅理恵
アルトⅠ（サマリアの女）：花房英里子
アルトⅡ（エジプトのマリア）：中島郁子
テノール（マリア崇敬の博士）：宮里直樹
バリトン（法悦の教父）：青山貴
バス（瞑想する教父）：加藤宏隆
合唱：日本フィルハーモニー協会合唱団、武蔵野合唱団、東京音楽大学
児童合唱：杉並児童合唱団

２．　特別定期演奏会

２０２６年度は、東京定期演奏会を「特別定期演奏会」と位置付ける。

これまで日本フィルとともに歩んできた名指揮者陣を迎えて、ともに 70 年の祭典を祝う。首席指揮者カーチュン・ウォン、桂冠名誉指揮者小林研一郎、フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）広上淳一、前首席指揮者のピエタリ・インキネン、ポストを離れてもなお日本フィルと特別なつながりを持つ山田和樹などが勢ぞろいする豪華なラインナップとなる。事業詳細は次項。

３．　日本フィルの「交響三題！」

日本フィル創立指揮者渡邉暁雄最後の愛弟子であり、１９９５年から２００３年まで指揮者を務めた藤岡幸夫が日本フィルの十八番を取り上げる。

日時：2026 年 5 月 16 日（土）東京芸術劇場（第 262 回芸劇シリーズ）
2026 年 5 月 17 日（日）サントリーホール（第 413 回名曲コンサート）

曲目：シベリウス：交響詩《フィンランディア》 op. 26
チャイコフスキー：交響曲第５番 ホ短調 op. 64
ベルリオーズ：幻想交響曲 op. 14

４．　日本フィル室内楽シリーズ「東京室内楽定期」のスタート

創立 70 周年を機に、楽団員によるアンサンブルコンサート、東京室内楽定期演奏会がスタートする。
編成も曲目も楽団員プロデュースによるシリーズ。
【東京室内楽定期】
・VOL. 1　2026 年 3 月 23 日　　銀座・王子ホール（315 席）
・VOL. 2　2026 年 11 月 29 日　　銀座・ヤマハホール（333 席）
・VOL. 3　2027 年 3 月 7 日　　銀座・ヤマハホール（333 席）

５.「日本フィルハーモニー交響楽団 70 年史」（仮題）の発刊

１９５６年、当時のクラッシック音楽界に新風を巻き起こした日本フィルの誕生からこれまでの歩みを、共演した数多くの素晴らしい指揮者やソリストと繰り広げてきた７０年間の音楽活動の記録、また社会とともに前進してきた活動の記録、そして未来へ向けた構想、その想いを楽団史としてまとめたもの。
・編集発行　公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団
・2026 年度中に発刊予定

６．　７０周年記念 CD の発行

創立７０周年を記念し、直近の指揮者陣を中心としたオムニバス CD を新たにリリースする。
以下の５名の名指揮者、カーチュン・ウォン、小林研一郎、アレクサンドル・ラザレフ、ピエタリ・インキネン、山田和樹の各演奏を収録。
詳細は「各事業」参照。

７．　感謝イベントの開催等

東京・横浜定期演奏会の会員を対象に、楽員・マエストロを囲むイベントを計４回開催するほか、70 周年記念 CD を会員に贈呈する。
新ロゴのノベルティグッズ（ピンバッチ）を作成、定期会員に贈呈する。

８．　新ロゴマーク（２０２６年１月発表）

共鳴を、熱いウェーブに
日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

ロゴマークと「合言葉」を刷新しました。
ロゴマークは日本フィルの頭文字 JPO を五線譜のモチーフにし、音楽による共鳴を立体的な波で表現しました。

III. ２０２６年度の各事業

１．　オーケストラ・コンサート/室内楽

オーケストラ公演：主催７７回、共催・受託５３回
室内楽：主催２３回、共催・受託１３７回（2026 年 3 月 1 日現在数）

７０周年記念イヤーとなる２０２６年度は、祝祭性と芸術性を両立させる機会であり、記念演奏会のマーラー《千人の交響曲》はその象徴的なハイライトになる。

並行して、首席指揮者や桂冠名誉指揮者ら縁の深いマエストロを迎えた多彩なプログラムでシーズン全体の魅力を高める。取り上げる曲目には、ベートーヴェンやチャイコフスキーといった「スタンダード」、マーラーやブルックナーといった大作のほか、近年あまり取り上げられることが稀な作品や邦人作品も含まれている。

伝統と革新を両立させたプログラミングにより、演奏水準の底上げを図り、ひいては楽団の音色と解釈の幅を広げる重要な契機とする。

７０周年を単発の祝祭年に終わらせず、持続可能な芸術的成長と聴衆基盤の拡大へつなげる転換点としてゆきたい。

● 東京定期演奏会（サントリーホール、金曜日/土曜日２回公演）２０回

７０周年記念「特別定期演奏会」として、日本フィルとともに歩んできた著名な指揮者が多数登場する。首席指揮者のカーチュン・ウォン、桂冠名誉指揮者の小林研一郎、フレンド・オブ・JP0（芸術顧問）の広上淳一はもちろんのこと、前

首席指揮者ピエタリ・インキネン、前正指揮者山田和樹などが登場し、各々が７０周年に相応しい充実のプログラムを披露する。(当初出演予定であった客員首席指揮者のネーメ・ヤルヴィ、桂冠指揮者のアレクサンドル・ラザレフ両氏の降板は非常に残念でならない)。

曲目には「家族的な絆」や「恩義」といったテーマも込めている。過去を振り返ると、大震災、コロナ禍、国際情勢の変化など、数々の困難があった。その時代を共に歩んできた指揮者や演奏家そして聴衆への感謝の思いが、このプログラムにも息づいている。同時に「絆」と「歴史」を土台にしつつ、７０周年を超えて未来へ歩みを進めるため礎となるラインナップともいえるだろう。

	No.	出演	プログラム
4月	779	指揮：カーチュン・ウォン［首席指揮者］ ソプラノ：森谷真理　アルト：林美智子 テノール：村上公太　バス：大西宇宙 合唱：晋友会	ベートーヴェン（マーラー編曲）： 交響曲第９番《合唱》
5月	780	指揮：アレクサンダー・リープライヒ チェロ：佐藤晴真	ハイドン：交響曲第44番《悲しみ》 三善晃：チェロ協奏曲第２番《研釣り星》 武満徹：群島 S. R.シュトラウス：交響詩《死と変容》
6月	781	指揮：広上淳一［フレンド・オブ・JPO］ ヴァイオリン：服部百音	ガーシュウィン： 交響組曲《パリのアメリカ人》 ファジル・サイ：ヴァイオリン協奏曲 《ハーレムの千一夜》 コープランド：交響曲第３番
7月	782	指揮：フランソワ・ルルー	調整中
9月	783	指揮：カーチュン・ウォン［首席指揮者］	ショスタコーヴィチ： 交響曲第７番《レニングラード》
10月	784	指揮：山田和樹 ヴァイオリン：ヴィルデ・フラング	間宮芳生：二重合奏協奏曲 （日本フィル・シリーズ第16作） バルトーク：ヴァイオリン協奏曲第２番 チャイコフスキー：交響曲第６番《悲愴》
11月	785	指揮：小林研一郎［桂冠名誉指揮者］	スメタナ：連作交響詩《我が祖国》
12月	786	指揮：沖澤のどか ピアノ：阪田知樹	レーガー：ピアノ協奏曲 ブラームス：交響曲第２番
1月	787	指揮：カーチュン・ウォン［首席指揮者］	ブルックナー：交響曲第８番

3 月	788	指揮：ピエタリ・インキネン ピアノ：アレクサンドル・メルニコフ	ベートーヴェン： ピアノ協奏曲第５番《皇帝》 R.シュトラウス：交響詩《英雄の生涯》

● 横浜定期演奏会（横浜みなとみらいホール、各回土曜日）１０回

１９７３年に開始された横浜定期演奏会は、日本フィル７０年の歴史をかたどる非常に重要な公演である（プロフェッショナル・オーケストラで初めて横浜で定期演奏会を始めたのも日本フィルである）。

芸術性の追求と普及の双方に軸を置いた企画内容は、東京定期演奏会とも意を異にし、そのプログラミングは硬軟のバランスをキープするのが難しい。

今年度も原則的には東京定期演奏会に比べて親しみのある《運命》《悲愴》《第九》といった一般的に人気の高い作品を並べつつ、しかし芸術性追求の精神も忘れることなく、横浜の地の芸術文化向上を意図し、ディーリアス（「楽園への道」）やラヴェルの緻密を極めた《ダフニスとクロエ》といった一歩踏み込んだ作品もチョイスした。これらのプログラムを通じてオーケストラ音楽の様々な側面や、作品によって千変万化する日本フィルの「貌」を聴き手に楽しんで頂きたい。

公演に付随するプレトークや解説、プログラムの工夫により、初心者や若年層にも入りやすい機会を提供し、教育的機能を果たしてゆく。

	No.	出演	プログラム
4 月	416	指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：前橋汀子	ディーリアス：楽園への道 メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 シベリウス：交響曲第５番
5 月	417	指揮：小林研一郎 ［桂冠名誉指揮者］ ピアノ：小山実稚恵	ベートーヴェン：《エグモント》序曲 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第３番 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第５番《皇帝》
6 月	418	指揮：広上淳一 ［フレンド・オブ・JPO］ ヴァイオリン：ボリス・ベルキン	モーツァルト：《劇場支配人》序曲 ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第１番 ベートーヴェン：交響曲第５番《運命》
7 月	419	指揮：西本智実 ピアノ：實川風	サン＝サーンス：《サムソンとデリラ》より 「バッカナール」 グリーグ：ピアノ協奏曲 チャイコフスキー：交響曲第６番《悲愴》
9 月	420	指揮：オッコ・カム ピアノ：河村尚子	ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第２番 ストラヴィンスキー：バレエ音楽《春の祭典》
10 月	421	指揮：小林研一郎 ［桂冠名誉指揮者］ オーボエ：杉原由希子 ＊ クラリネット：伊藤寛隆 ＊	モーツァルト：ディヴェルティメント K.136 モーツァルト：協奏交響曲＊ （オーボエ、クラリネット、ファゴット、 ホルンのための）

		ファゴット：田吉佑久子* ホルン：信末碩才 *	ベートーヴェン：交響曲第７番
11月	422	指揮：カーチュン・ウォン ［首席指揮者］ ピアノ：スティーヴン・ハフ	ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第５番《皇帝》 サン＝サーンス：交響曲第３番《オルガン付》
12月	423	指揮：阪哲朗　ソプラノ：沖彩夏 カウンターテノール：藤木大地 テノール：小堀勇介　バリトン：池内響　合唱：東京音楽大学	ベートーヴェン：交響曲第９番《合唱》
1月	424	指揮：カーチュン・ウォン ［首席指揮者］ トランペット：児玉隼人	ハチャトリアン：組曲《仮面舞踏会》 ハイドン：トランペット協奏曲 J.シュトラウスⅡ世：喜歌劇《こうもり》序曲 J.シュトラウスⅡ世：ワルツ《美しく青きドナウ》 ラヴェル：《ダフニスとクロエ》第２組曲
3月	425	指揮：カーチュン・ウォン ［首席指揮者］ ヴァイオリン：田野倉雅秋 ［ソロ・コンサートマスター］	ボロディン：オペラ《イーゴリ公》より序曲 ハチャトゥリアン：ヴァイオリン協奏曲 ムソルグスキー：交響詩《禿山の一夜》 レスピーギ：交響詩《ローマの松》

● 夏休みコンサート（2026年7月18日～8月3日）１８回

主催公演１７回（一都三県16回、京都１回)、依頼公演１回。

多くの子供たちが、夏休みに家族とともに身近なホールで音楽にふれ、その情操を高めていくことを願い続けてきた夏休みコンサートは５２年目を迎える。

通常のコンサートに比べ廉価な料金設定で、聴衆層の拡大、特に未来のクラシック音楽ファンの育成につとめている。２０２６年度は大人料金のみ小幅な値上げを実施。子供の鑑賞機会を量的に維持しつつ採算性の確保に努める。

［第１部］J.シュトラウスⅡ世：ワルツ《美しく青きドナウ》他

［第２部］チャイコフスキー：バレエ《くるみ割り人形》

［第３部］オーケストラの演奏に乗ってみんなで歌おう

指揮／広上淳一、園田隆一郎　司会とうた／江原陽子

第２部の出演／スターダンサーズ・バレエ団

● 九州公演（2027年2月13日～23日）　９回

各地のボランティアによる実行委員会との共同主催で５２年目を迎える九州公演。指揮は近年日本フィルとの共演機会も多く、真摯な音楽づくりが聴衆のみならず楽員からも支持を集める大井剛史が務める。

本ツアーは地元実行委員会同士の固い連携と熱い信念に基づく働きかけによって実現されている。九州公演ならではの人と人との温かな交流を通じて、より一

層の感謝の意をあらわし、地域の文化振興に寄与するよう努めてゆきたい。

● その他の主催演奏会　２２回（首都圏２０回、東北２回）

サントリーホール、東京芸術劇場を主な会場に、幅広い聴衆育成とクラシック音楽の普及を目指し、多彩な公演事業を行う。

桂冠名誉指揮者小林研一郎との「コバケン・ワールド」「第九特別演奏会」は、大変な人気を博すシリーズとして定着しており、日本フィルの特色をなす公演として認知されている。この２シリーズを軸に、「名曲コンサート」、「芸劇シリーズ」、「特別演奏会」等でさらなるクラシック音楽の普及に取り組む。地元・杉並公会堂で継続開催する「春休みオーケストラ探検」は、全館を利用し２回のオーケストラ・コンサートの他、やワークショップやソロ・リレーコンサートなど多彩なプログラムをお楽しみいただく。

２０２６年度は前述の通り、７０周年特別演奏会も２回開催する。

● 共催公演　１２回

ホールとの共催公演はいずれも継続事業である。サントリーホールとの「にじクラ」も好評をもって年３回規模で継続中。大宮ソニックシティ（７回）、府中の森芸術劇場（２回）を引き続き積極的に展開していく。

相模女子大学グリーンホールは改修休館中のため、室内楽演奏会を１回行う。

● 受託公演　５３回

２０２６年度の特筆すべき受託公演として、桂冠名誉指揮者小林研一郎のサントリーホールにおける指揮５００回を記念したアニヴァーサリー公演（主催：サントリーホール、10 月 26 日）が行われる。

ホール主催事業出演は、杉並公会堂（７回）、フェスタ・サマーミューザ、フレッシュ名曲サロン（２回）のほか、新規に長野市芸術館、ウェスタ川越、松戸森のホール２１。長い関係性を持続できるよう努力してゆきたい。

企業等との関係では、UBE 株式会社の地元貢献事業として、１９回目を迎える宇部公演（UBE チャリティ・コンサート、指揮：山下一史）のほか、がん研有明病院主催の「がん患者さんと歌う第九」、武州ガス等。

その他継続事業としてサントリー㈱入社式、都民音楽フェスティバル等。

学校公演では「杉並区小中学校音楽鑑賞教室」の継続（8 回）、私立学校の公演の他、例年通り舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演、6 回）にも出演予定。

● 室内楽

新たにスタートする「東京室内楽定期」３公演と、「横浜ワンダーランド」１公

演を主催として開催する。

【東京室内楽定期】
・VOL.1　2026年3月23日　　銀座・王子ホール（315席）
・VOL.2　2026年11月29日　　銀座・ヤマハホール（333席）
・VOL.3　2027年3月7日　　銀座・ヤマハホール（333席）
【横浜アンサンブル・ワンダーランド】
（VOL.3は26年1月27日、横浜みなとみらいホール小ホール。VOL.4検討中）

日本フィル主催の室内楽シリーズは、オーケストラの定期演奏会を開催する東京・横浜の地で定期開催することとなる。普段オーケストラで音楽を共に創り上げているメンバーによる濃密なコミュニケーションや息遣い、その瞬間瞬間に紡ぎ出される響きを身近にお楽しみいただく。

◆ 音楽を必要とする人々への取り組み／公演に付随するプログラム
オーケストラの主催公演を中心に、以下の取組等を引き続き継続する。
・主催公演での託児サポート
・東京定期演奏会での点字プログラムの用意
・ハンディキャップを持つ方のための割引や若い世代への割引料金の設定
・演奏会場でのプレトーク（東京・横浜定期演奏会。音楽評論家等の有識者）
・「オーケストラたんけん隊」（特定のコミュニティへのプログラム提供）

◆ 企業・自治体等との連携によるコミュニケーションの創出と支援開拓
日本フィルは長年にわたり、オーケストラ・コンサートを軸として教育・地域・被災地支援など多面的な社会貢献活動を展開している。これを基盤に企業や自治体と協働することで、文化価値の認識促進と社会的働きかけの拡大が期待できる。また楽団内でのプログラム開発や地域密着の実績は、共同プロジェクトの信頼性を高める重要な資産となるだろう。
２０２６年度も企業・自治体等との連携により、楽団の活動の強化と社会的価値の拡大を目指す。
UBE株式会社の主催、宇部市の協力によって開催している「UBEクラシック・コンサート」は１９回目となる。オーケストラ・コンサート、病院訪問と子供たちへの楽器指導を行い、地域の音楽文化醸成への貢献を引き続き継続する。
他にも多くの企業より主催公演への冠協賛/協賛によって公演の場を社の地域貢献等に活用いただき、また企業主催の公演依頼をオーケストラ・室内楽の双方でいただくなど、協働の機会を受けている。

自治体との連携では、杉並区（友好提携を結び楽団の本拠地）、岩手県・福島県（東北の夢プロジェクトによる連係協定）、福岡県大牟田市（「音楽を通した魅力あふれるまちづくり推進協定」による子どもたちの公演招待等）があり、新規で新潟県佐渡市から市民のための公演依頼を受けている。

芸術性活動・社会性活動双方への理解と協力・連携が強まることで、より多くの地域自治体と企業の連携が増加しており、相乗効果を生んでいる。これからもこの両輪を楽団の大きな特徴と位置づけ、活動の輪を広げていく。

２．エデュケーション・プログラム、リージョナル・アクティビティ

エデュケーション・プログラムとリージョナル・アクティビティは日本フィルの長年の歴史に裏打ちされた社会性活動の中核である。豊富な実績による多彩なプログラムが楽団の大きな個性であり強みとなっている。この強みを活かし、対象となるコミュニティと連携した活動に対し、一層期待と評価が高まっている。

◆ オーケストラ編成によるエデュケーション・プログラム

前掲の「夏休みコンサート」は４歳から体験できるクラシック入門編として着実に継続していく。

「みる・きく・さわる」をコンセプトに体験を重視した杉並区での「春休みオーケストラたんけん」は２０２７年３月、杉並公会堂との共催で開催。地域における子供への音楽の取組として、０歳からの子供を主対象とした特別なプログラムを企画し、多彩な芸術的体験を提供する。また、楽器体験やリレーコンサート、ホールたんけんなどで１日中音楽に浸る企画とする。

◆ 室内楽によるプログラム

地域コミュニティとの密なつながりによるアウトリーチ・プログラムは、楽員の自主性と積極性を基盤に、聴き手に合わせたプログラムを展開していく。

２０２６年度は、杉並区では杉並出張コンサート、杉並区役所ロビーコンサートなど３０回、埼玉県ではさいたまプライマリーコンサートとして、県内小中学校１２回。九州ではプレコンサートとして１１月および１２月に各地を訪問する。

◆ ワークショップ・オリジナルプログラム

他楽団にはない特徴ある取り組みとして、音楽づくり等の要素を含むワークショップを長年にわたり開催してきた。今年度も、参加者が演奏・創作・対話などを通して主体的に音楽と関わる主催ワークショップを継続するとともに、以下のような多様な展開を予定している。

・学校現場での実践：小中学校における音楽ワークショップの実施　【文化庁学校公演事前ワークショップ】
・他分野とのコラボレーション：美術など異なる芸術分野と連携した創造的プログラムの開発　【美術館との新規連携実現に向け調整中】
・ホールとの連携型ワークショップ：ホール主催のコンサートに付随し、演奏作品への理解と鑑賞体験の深化を図るプログラムの実施。２０２６年度はウェスタ川越にて予定、ほか可能性を検討中。
これらの取り組みを通じて、音楽の本質に迫る多様な学びと出会いの場を創出することを目指す。

◆ 地域での活動
エデュケーション、リージョナル・アクティビティを通して地域での活動を充実させていく。

（１）杉並区：自治体との協働をさらに進める
本拠地である「杉並公会堂」をはじめ、様々な事業で連携を行っている「セシオン杉並」「西荻地域センター」といった施設との良好な関係を背景に、杉並区ならではの地域に密着した取り組みを実施する。
区内の学校や施設を訪問する「杉並出張コンサート」、「区役所ロビーコンサート」「公開リハーサル」のほか、「２０歳の集い」「敬老会」といった多数のイベントで生演奏を提供。さらにセシオン杉並、西荻地域センターとは「６０歳からの楽器教室」を共催するほか、室内楽のコンサートも開催する。

（２）地域との継続的取組み
九州公演は５２年目を迎える。各地の実行委員会は高齢化などの課題がある地域も少なくない。「子どもへの教育」を趣旨に友好提携を結んだ大牟田市の事例を横展開させ、新規助成を梃子にした具体的活動、行政との連携や、世代交代を通じた活性化などに鋭意取り組みながら今後も継続していく。
山口県宇部市や岩手県、福島県でも企業や自治体との連携により事業を継続していく。

３.「被災地に音楽を」「東北の夢プロジェクト」（被災地での音楽活動）

日本フィルの社会性活動において重要な位置を占めている東北の復興支援活動は、東日本大震災の発災直後から１５年間継続し、実施回数は３７０回を超えた。自治体・企業・学校・文化施設等との多様な連携・協力体制はますます充実してき

ており、今後も、各地のニーズや地域課題を踏まえ、復興の先の姿を見据えた活動を継続していく。

◆ 東北の夢プロジェクト　２回（岩手県、福島県で各１公演）

文化庁の支援を受け東北の復興を後押しする取り組みとして２０１９年に開始したプロジェクト。２０２６年度は岩手・福島で開催する。各県の沿岸・内陸で熱心に活動する子どもたちの音楽・芸能などの活動を支援し、楽員との交流事業を実施し、オーケストラ公演の共演者に招き、その活動を広く紹介する。岩手では岩手県、岩手日報社、岩手県芸術文化協会と共に実行委員会を結成しており、福島では福島民報社、福島県教育委員会との共催、福島県の協力を得る。

◆「被災地に音楽を」

東北の沿岸各地の被災地を少人数の音楽家が訪問し、自治体やコミュニティとの協働の下、地域課題の解決、未来へとつながる取り組みを行う。

岩手では陸前高田市に４回目の訪問を行い、コンサートや高校生との協働を通じて地域の活性化を目指す。また、福島では原発周辺地域の双葉町で新たなコミュニティづくり目指してコンサートを行う。震災直後から毎年訪問を続けている南相馬市では、南相馬市文化振興事業団との連携により市内の中学校へのアウトリーチ事業を行うほか、原町第一中学校へのクリニックも継続する。

◆ その他復興支援・東北地方関係事業

福島県の依頼により、部活動の地域移行問題に対応する「アカデミー（地域部活動）」の支援として、吹奏楽の指導を行う。また同県田村市の要請により学校部活動の指導を行う。

双葉町に新設されるホテル兼会議場 FUTATABI のオープニングセレモニーでの演奏を委託した。これ以外にも自治体・企業等との連携・協働により各地での公演・アウトリーチ等を検討している。

４．演奏コンテンツの活用：映像、音源、配信を活用した新たな事業展開

◆ JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA RECORDINGS

２０２０年度文化庁「収益力強化事業」により楽団オリジナルレーベルを創設、引き続き下記の３つを主軸方針とし、事業を活発化していく。

① JPO HISORICAL 歴史的音源の発掘紹介
② JPO NOW 日本フィルの今の演奏水準を伝える実演
③ JPO of JAPAN 日本人作曲家の作品

２０２６年度は「７０周年記念 CD」「夏休みコンサート予習用」「九州公演用」各 CD をリリースするほか、「JPO HISTORICAL(デジタルリリースのみ))として、７０年史資料とリンクした未音源化作品等の開発を検討する。

◆ メンバーズ TVU チャンネルによる映像コンテンツの活用

① 映像を通じたオーケストラの魅力発信

② 地方ホールでのライビュビューイングのトライアル（さいたま定期）

③ 映像のアーカイブの二次活用。収益化モデルの推進

◆ コンテンツ活用についての諸権利の確保、維持

引き続き、下記の基本方針をもとに、公益財団法人として適切にコンテンツを活用する。

① 実演の原盤権は楽団が所持し、二次使用を促進していく

② 実演家の権利を守り、隣接権は積極的に行使していく

③ 実演家との契約関係について、必要な見直しや契約の強化を進める

エキストラ演奏家とは２０２２年度、「出演依頼」から、電子契約システムよる「出演契約」化を実現しており、引き続き権利保持対応を推進していく。

５．社会の変化に対する音楽団体の関わり

◆ テクノロジーを活用した社会的発信－「落合陽一×日本フィルプロジェクト」（オーケストラ音楽をより多くの方に伝える新たな取り組み）

２０２６年度は従来の規模では開催しない。楽団として経済的負担のない形で引き続きテクノロジーを活用した未来創造的事業の継続、発信を検討する。

「NEXT 日本博」の助成動静（2026 年度期中に概要発表予定）や横浜花博との関連も視野に、２０２６年度中の小規模開催も視野に具体化の検討を進める。

６．サポート

◆ 国（文化庁)、自治体

国からのサポートは大きな変換期を迎えている。２０２６年度は国の動向を注視しながら、支援の維持、獲得に努めていく。

・東京、横浜定期演奏会：「芸術創造等特別支援事業」（日本芸術文化振興会）
　３年間の継続助成であり、２０２６年度は新規採択年となる。

・九州公演：「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」が２０２５年度で終了。
　新規助成「劇場・音楽堂と芸術団体との連携による地域活動基盤形成事業」への応募。

・東北の夢プロジェクト他：「新たなオーケストラ助成」（上廣倫理財団の寄付金による日本芸術文化振興会助成）は当初予定の３年間事業を終了した。
・落合陽一×日本フィルプロジェクト：「日本博 NEXT」の助成動向が不明。
・杉並区：覚書による活動を継続

◆ 民間助成

ローム ミュージック ファンデーションの助成による「コバケン・ワールド」及び京都での夏休みコンサートでは、大人から子供まで幅広い聴衆に音楽の楽しさを伝えていく。

その他、芸術性活動に対する民間助成は減少減額傾向である。２０２６年度はアフィニス文化財団、花王芸術・科学財団、三菱 UFJ 信託芸術文化財団からの助成が決定している。

社会性活動については、「東北の夢プロジェクト」ほかに対し上廣倫理財団からの直接助成を依頼中。

◆ 企業からの支援

特別会員（寄付会員制度）、企業協賛・広告による支援を堅持する。

◆ 個人からの支援/寄付

支援会員システム（パトロネージュ、サポーターズクラブ、日本フィルハーモニー協会）のほか、遺贈、事業/活動に対するスポット寄付を受け入れている。

◆ 物品販売（収益事業）

T シャツ、カレンダー、文房具他を販売。お客様とのコミュニケーション・ツールとしても活用する。

以上